

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300520		
法人名	有限会社 プロスタ		
事業所名	グループホーム 心		
所在地	長崎県島原市緑町9177番地5		
自己評価作成日	令和 4年 8月 25日	評価結果市町村受理日	令和 4年 12月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和 4年 10月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は眉山の麓に位置し、市内でありながら自然に囲まれた環境の中で、四季の移り変わりを目で見て肌で感じることができる場所に立地しています。  
当事業所では、入居者様の意思を尊重することを大切にしており、スタッフは入居者様と関わる際には必ず本人様の同意を得るよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは眉山の麓の自然豊かな場所に立地している。創業時よりホームの広報誌を回覧板を通じて地域に配布したり、町内で開催される「鬼火」の催しへ参加するなど、地域との繋がりを大切にしている。毎年、ホームで行う「芋煮会」には地域住民が参加し、入居者の楽しみとなっていたが、コロナ禍もあり、外出のほか、地域や家族と接触する機会も含めて制限が継続していることで入居者がストレスを感じている事を考慮し、今年は「芋煮会」を再開できるよう準備を進めている。代表者及び管理者は、職員が働きやすい職場環境を整えることに留意し、職員へ日頃から声をかけ、話を聞くように取り組み、離職率も低下している。職員同士のチームワークもよく、必要時には互いに声をかけ注意し合いながら笑顔で業務を遂行している。理念「笑顔で仲良く手を取り合って、楽しくゆっくり暮らします」にもあるように、職員間、及び職員と入居者が、笑顔で仲良く手を取り合っている事が窺えるアットホームな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム心

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時の唱和を続けることで、職員の交代や新しい職員が入った場合でも全員が理念を共有・理解できるようにしています。	毎朝、理念「笑顔で仲良く手を取り合って、楽しくゆっくり暮らします」を唱和することで、職員は常に理念を意識しながら業務を行っている。職員は毎月のミーティングを通じて実践状況を振り返り、職員が互いに声を掛け合いながら、理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染対策の中で可能な限りの繋がりを保てるようにしてきました。挨拶や広報誌の配布など。	コロナ禍で地域との交流は減少しているが、開設時よりホームの広報誌を回覧板で地域に配布したり、町内の催しである「鬼火」へ参加のほか、寺院の住職がホームに訪れ法話やコンサートを披露してもらうなど地域と交流し、良好な関係を構築している。ホームではコロナ禍が収束に向かえば、ホーム中庭で「芋煮会」の開催を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を使い、写真やコメントで事業所での取り組みを紹介して理解して頂けるよう努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染対策のため集まったの会議は実施できませんでしたが、2ヶ月に1度推進委員の皆様へ状況報告や取り組み状況の説明を会議資料として作成・配布し、意見・要望がある場合は電話やFAXで受付ています。	コロナ禍により、集合形式の運営推進会議の開催を自粛しており、会議の構成メンバーには書面にてホームの運営状況、身体拘束の現状、避難訓練の実施報告等を行っている。構成メンバーへ書面配布後に電話等で意見を伺い、サービスの向上に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点がある際は、市町村に電話、または、窓口に出向き、助言・指導をして頂き、問題解決に向けて協力して頂いています。	行政担当者とは運営推進会議を通じてホームの現状を伝えると共に、日頃より電話や窓口で情報の共有や相談を行っている。最近では加算取得の方法などを相談し、助言を得ている。職員は市が主催する研修会にも参加し、市町村との連携を深めるとともに、職員のスキルアップにも繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講習会の受講や資料を用い、身体拘束について職員全員が正しく理解できるようにしています。	3か月に1回、職員全員で身体拘束適正化委員会を行い、運営推進会議にて実践状況を報告している。スピーチロックに関し、多忙な業務の中で時折聞く事もあるが、その都度、職員間で注意し合いながら、身体拘束ゼロを目指し実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束に関わる研修には、できるだけ全ての職員に受講してもらい身体拘束・虐待をしない意識を常にもつように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修受講済みであり、利用者、又は家族の要望があった時は公的機関に相談して支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に不安や疑問に思っている事がある場合は納得いくまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族様からの意見や要望があれば、事業所内で会議・検討している。また、その内容を運営推進会議で公表するように努めている。玄関に意見箱を設置している。	玄関に意見箱を設置し、家族等の意見の反映に努めている。尚、コロナ禍で面会制限が継続しており、意見は少ない。家族が利用料金の支払いに来所された際や、電話連絡時に意見を伺うようにしている。ホームでの入居者の様子が家族へ伝わりにくい事もあり、今後、写真などを用いて家族へ入居者の様子を伝える事を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はミーティングの中で意見を聞き、即対応できるようなものは行っている。業務日誌の中に連絡欄を設け、そこに意見を書くようにし、把握している。	代表者及び管理者は、毎月実施する職員会議を通じて職員の意見や提案を聞くようにしている。管理者は会議以外でも日々の業務を通じて気軽に意見や要望等を言える関係性を築いている。新人職員には個別に面談の機会を設け、現状把握と悩みや課題解決のフォローを行っている。職員の資格取得の為に勤務調整なども柔軟に行っている。	今年度よりハラスメント対策の強化が求められていることを踏まえ、職員がホームの運営に関する意見や提案がより反映できる環境を整備するためにも、ハラスメントマニュアルの作成や相談窓口の設置、職員研修等今後の取り組みに期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者から職員の勤務状況や職場環境の状態についての話を聞き、自身で確認し改善する必要がある場合は整備するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	十分努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内、又は、島原半島で構成する協議会に所属しており、オンラインでの会議や勉強会に参加し交流を深めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	カンファレンスを通じて関係作りに努めている。本人が納得し安心されるまで説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	カンファレンスを通じて関係作りに努めている。 家族が納得し安心されるまで説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援に対して十分努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内で本人が『できる事』を見つけながら、職員と本人や他の入居者も一緒になり、「みんな一緒なんだ」と感じていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等の連絡時には、本人の現状を伝えることで家族にも施設での本人の生活の状態を知って頂いています。本人から要望や問題があった際も家族と話し合い、協力を得られるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所されると、それまでの関係性が途絶えてしまいがちになられる事が多いため、来訪や要望には職員で出来る事であれば答えられるようにしている。	コロナ禍により、ガラス越しで家族や近所の友人といった馴染みの人などとの面会を実施している。入居者の要望に応じ、入居前から行っていた趣味の編み物が継続できるよう家族へ毛糸の購入を依頼するなど、趣味活動が続けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が関わり合いがもちやすいようにリビングやお出かけの際での席の位置には配慮している。孤立時は職員が入るきっかけをまず作ることで孤立にならないよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今後取り組みたい事等利用者、家族の意向を確認し、意欲的に生活できるよう努めている。	入居時に本人の趣味活動等を確認し、入居後の「楽しさ」や「やりがい」に繋げている。本人との会話の中から把握した内容は個人記録に残し、申し送りや会議を通じて職員間で共有している。入居者より買い物がしたいとの要望には、コロナの状況に合わせ、感染対策を講じて個別に買い物に行くなど本人本位に対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、趣味、嗜好等を確認し利用者、家族が望んでいる生活が継続できるよう支援行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	異変に気付けるよう生活記録を記載し、バイタル、食事、排泄のチェック表にて各職員で確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング、評価を行い、利用者、家族のニーズを把握し目標に向けてのサービス提供ができるよう介護計画を作成している。	ホームではおおむね3か月毎にモニタリングを実施している。計画作成担当者は、職員の意見を確認し、カンファレンスでの意見交換を通じて介護計画を作成している。介護計画は個人記録に添付し、職員が計画を確認しながらケアが実践できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時間をかけてゆっくりと利用者と接することで、新たに情報収集することができ、職員間での情報共有、支援の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のニーズを把握し、今後、必要と思われるサービス等検討しながら一人ひとりに合ったサービスの提供できるよう繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、有意義に生活できるようまた、イベントの参加が可能であればコミュニケーションが図れるよう支援行う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診、往診にて、医療機関との連携を図っている。	入居前のかかりつけ医を継続して受診することができるが、ホームへ協力医の訪問診療がある為、入居後は、ホームの協力医に変更する方が多い。原則として受診には職員が同行しているが、遠方の医療機関を受診する場合は家族に協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約を結んでいる。週1回、生活での情報を提供し、担当看護師よりバイタルチェック、問診。状態の変化、気づきに対しての助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関へ情報提供を行い、定期的に入院中の状況を確認しながら退院に向けての支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医へ状態報告を行い常時情報を共有している。	ホームでは看取りに関する指針及びマニュアルを整備し、最期を自分らしく穏やかに迎えられるよう、チームで看取りケアを行っている。昨年は、看取りを行った実績もある。看取りを行った後には管理者が声をかけ担当した職員の精神的な負担軽減に繋がるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について定期的に研修が実施できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時の対応マニュアルを作成し、定期的に避難訓練を実施している。	避難訓練は、敷地内にある系列事業所と合同で実施しており、事業所間の協力体制の確立と、地域住民との協力体制を構築している。訓練は火災だけでなく、河川の氾濫といった自然災害を想定した訓練を実施しており、普段から災害対策への意識づけを図っている。	災害等の緊急時に持ち出す為の入居者情報一覧を準備しているが、緊急時に持ち出す入居者の情報に不足があれば対応に時間を要する恐れがある。有事の際に入居者の必要最小限の情報を整理しておくことで、避難先においても入居者が円滑に医療・介護に繋がれるよう今後の工夫に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	少しばかりの方言は使いながらも、言葉かけには十分に注意しています。社内研修でも接客マナーを取り上げて学習しています。	入居者への声かけは、職員が方言を用いて親しみを込めた言葉かけを行ないながらも、タメ口や子ども扱いした言葉など一線を越えないよう留意している。接客マナーに関する資料を用いて学習会を行い、入居者の尊厳を守るケアに努めている。職員は、入居者へ言葉かけを行う場合は近くまで行き声をかけるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や仕草の中で本人の思いを引き出し働きかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望等に対応できるよう心掛けています。コミュニケーションの中で本人からのサインを見逃さないようにし、施設での生活を良きものにしていただくように努力しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に好みの洋服などを選んでいただき、着替えていただいています。服装の乱れや整髪時には、それとなく職員が介助し直しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者お一人おひとりの好みや量、食べられる時間を把握しながら提供させていただいています。現在は感染防止対策のため、入居者と職員との食事の時間はずらして対応しています。	食事は外部業者に委託し、ホームで温めと盛り付けを行っている。入居者の状態に応じて職員と一緒に食器拭きや机拭き等の片づけを行っている。誕生会などの行事にはちらし寿司や唐揚げなど本人の好み等に合わせて提供している。コロナ収束後には外食の機会を再開する意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日分の水分摂取量を計測しており一人一人がどれだけ摂取しているか把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしている、就寝前には義歯洗浄剤にて消毒をしている、歯ブラシやコップが不衛生にならないように週に一度ハイター消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来るだけ離床していただき、トイレでの排泄を促している。本人ができるところまでを観察し必要ところからは介助にあたっています。	職員は排泄状況を個人記録に記入し、入居者個々の間隔に合わせて声かけやトイレ誘導を行っている。また、排泄用具は入居者の状態に応じてその都度検討し、適切なサイズに変更するなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補給で便秘予防にとりくんでいます。それでも便秘が続くときは、かかりつけ医へ報告・相談を行い指示に従い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯については対応できる時間帯に限りがあり、夕方から夜間にかけての入浴は行っていない。希望やタイミングについては、体調面を観ながら入居者様からの希望に添えるよう入浴中の時間はお任せしている。	週4日(月・火・金・土)を入浴日とし、入居者がゆっくりと入浴できるよう支援している。入浴を拒否する場合は、しつこくならないよう時間をおいて声をかけたり、入浴の伝え方を工夫するなど、無理強いしない対応で、入居者が気持ちよく清潔に生活できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理な就寝を勧めないように心掛けています。休息についても入居者様の声を大事にし、自室で休まれることを妨げないようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時や受診時、薬の用法、副作用を確認し新薬などが処方された場合は、医師、薬剤師に説明を求め、理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様や家族様からの情報とアセスメントからの情報から、本人様の『できること』を見出すようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策が始まる以前は家族様と協力しながら実施できていたが、感染対策後は外出を控えていただくことをお願いしているのが現状である。	コロナ禍にて外出は自粛している状況にあるが、気候を見ながら近所を散歩したり、中庭で鉄板を使って焼きそばを作るなど、閉じ込まらない工夫をしている。コロナ禍以前は地域住民と一緒に「芋煮会」を実施しており、今後、再開していく意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が可能な方には少額の金銭はもっていただいているが、大半の方は持つことによりトラブルの心配があるので代表者が管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には職員がダイヤルを回して支援している。携帯電話を所有されている方は、着信時の取り次ぎ(着信音が聞き取れなかった時)や、不在着信があった時などは携帯電話の操作方法をお教えし家族様との交流ができるよう支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大き目のソファを配置しており、いつでも自由にくつろぐことが出来る、季節の草花を飾り四季を感じてもらえるように心がけている。	ホーム内の清掃は、毎日、掃除機かけと拭き掃除を行っている。感染予防として定期的な換気と消毒を行っている。入居者と職員と一緒に作った季節の作品を共用空間のホール壁面に飾り、入居者がホームの中でも四季を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が気軽に会話出来るように席の配置に配慮している、南側にはウッドデッキがあり天気の良い時には日光浴を楽しむことが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、本人または家族が希望する物など持ち込んで頂けるようにしている。ただし、居室のスペースにも限りはあるため、歩行や移動の妨げにならない程度の物と説明させて頂いている。	居室の清掃はホールと同様に毎日行っている。入居者の馴染みの物を持ち込んで頂くよう家族へ促し、衣装ケースや机、イスなどを持ち込んでいる。入居時に、ベッドや家具等の配置について、入居者・家族と相談しながら安全面や動線を考慮した配置にすることで、入居者にとって居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差もなく随所に手すりを設置しているため、自力歩行も不安なく出来る、又、自分の居室と解るように各入口に表札を掲げている。		